

2020

9

令和2年9月10日発行（毎月1回10日発行） 通巻325号

人生100年時代 共生社会の生き方情報誌

# とまろお



さわやか福祉財団

# 『NEXT ~心と心をつなぐ工夫と取り組み~』 動画が出来上がりました！

新型コロナウイルス感染症拡大により、多くの住民主体の活動が休止、または再開を躊躇しているという声が聞こえてきます。一方で、会えないからこそ助け合い活動の必要性は高まり、「コロナと共生する暮らしの中で、何ができるか」を地域の皆さんで協議し、そこから生まれたさまざまなアイデアや工夫を凝らした活動も始まっています。

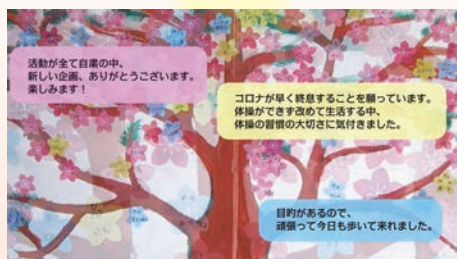
このような活動を紹介するために、当財団では、「NEXT 心と心をつなぐ工夫と取り組み」と題する動画の制作を開始しました。第1弾は奈良県生駒市、第2弾は静岡県袋井市の活動です。

コロナ禍の中でも心と心をつなぐ活動のヒントとして、実践に、そして生活支援コーディネーターの皆様は勉強会などに、ぜひご活用ください。

動画は、当財団ホームページでご覧いただけます。

<https://www.sawayakazaidan.or.jp>

## 〈奈良県生駒市〉



## 〈静岡県袋井市〉



# とあ言おう

2020年9月号

## CONTENTS

### 2 新しいふれあい社会 実現への道

## バトンを受け取る自治体と住民

清水 肇子

### 4 特集 コロナ禍を乗り越えて共生社会へ

今だからこそ、つながりの大切さを実感できる。

「つながるをつなげる」各地の取り組み 高橋 望

### 10 「地域助け合い基金」状況のご報告

### 12 〰️応援ありがとうございます!〰️

「地域助け合い基金」助成先のご紹介

### 14 広げよう つなげよう 地域助け合い 活動の現場から

## 住民のちょっとした困りごとを

地元商店街の元気とアイデアで支え合う (大阪府枚方市)

### 20 看取り・終末期を考える 裏を見せ、表を見せて…

## 武家の論理と切支丹の教えが共鳴した

細川ガラシャ夫人の最期

尾崎 雄

### 新しいふれあい社会づくりに向けて

#### ● 新地域支援事業・

助け合いの地域づくり

24 北から南から 各地の動き

#### ● その他の財団の活動 など

28 ご支援ありがとうございます。

さわやかパートナー(賛助会員)・ご寄付者の皆様のご紹介

30 さわやか活動日記(抄)

㊦「地域助け合い基金」助成応募のご案内

㊧「助け合い大全'19」のご紹介

㊨「地域助け合い基金」ご寄付のお申込みについて

㊩みんなの広場/投稿募集

㊪さわやかパートナー・『さあ、言おう』のご案内/表紙絵から

助け合いを広げよう! 新・ひとりごと・諏訪 徹

# バトンを受け取る自治体と住民

さわやか福祉財団 理事長 清水 肇子

コロナ関連のニュースがいろいろな報道されている中で、国と地方自治体、どちらがリーダーシップを持つべきかという話題がよく取り上げられるようになった。これは、ただ、コロナ特有のことではなく、元々あった権限委譲と財源の関係が、コロナ禍によって改めて浮き彫りにされたに過ぎない。逆にいえば、この目の前の大きな危機を乗り越えるためにも双方の関係性と役割をしっかりと見直す絶好の機会ともいえるわけだが、その議論の中で、まだともすると忘れられがちにされているのが、住民の視点だろう。

地方自治体といっても、都道府県と市町村等基礎自治体があり、それぞれの役割があるが、国との関係でまとめていえば、自治体は、住民の暮らしや地域のまちづくりに関わる部分については、できるだけ柔軟に行えるような政策と財源を国に求めている。地方分権の大きな流れの中で、それは当然のことで、「現場」が身動きが取りづらく、使い勝手が悪ければ、必要な政策も打てず、また時機も逸してしまう。国が目指す「地域共生」の実現を真にすすめていくには、この点の枠組みの抜本的再構築が、一刻も早く、そしてより具体的に求められているの

だが、では、この「現場」を担う自治体の動きはどうだろうか？

国との関係で主導権をと主張する首長は多い。ただし、国と自治体の関係の課題は、自治体と住民の関係にも重なるところがあって、この点を主張する自治体の中で、果たして、自分たちがこれまで行ってきた判断や権限をどのくらい地域に渡す意識を持っているだろうか、とも思う。自治体の力がただ強くなるだけでは、「地域共生」はすすまず、逆に悪影響にもなりかねない。国が大きな視点から将来像として描いてきた地域主体の方向性は、これまでともすると、自治体側の対応が壁となり、住民主体の新たな地域づくりがすすみづらい現実があった。住民の暮らしの中で、特に自助・互助の部分については、当然ながら住民の主体性が一番の基本であるから、今度は自治体が、受け継いだ権限のうち、その実際の判断をどのくらい住民に任せられるかが、大きな課題となってくる。

幸い、ここ数年、住民の声を広く採り入れながら事業をすすめていこうという自治体が各地に増えてきている。住民の判断のできる分野を増やし、かつ柔軟に取り組めるよう使いやすいお金の出し方が不可欠となってくるため、その点の改革も重要となる。

ただしそうになると、最後はやはり私たち住民一人ひとりの意識と行動にかかってくるといえそうだ。住民といってももちろん様々な考えがあり、状況も人それぞれ。多くの人々が地域の課題に関心を持って多様な意見を出し合い、何らかできる範囲で活動に参加し、それが難しい立場の人たちの気持ちを代弁しながら応援していく。そうした関わりの中でいきがいを感ぜられる社会になるように、渡されたボタンはしっかりと受け取っていきたい。

## 特集

# 今だからこそ、 つながりの大切さを実感できる。 「つながるをつなげる」各地の取り組み

さわやか福祉財団 新地域支援事業担当リーダー 高橋 望

一向に収束の気配を見せない新型コロナウイルス感染症の影響は、一人ひとりの心の中に、これまで経験したことのないような混乱と不安と、そして湧き出てくる「前に進む勇氣」を感じさせている。これまで各地で行われていた居場所や訪問助け合い、子ども食堂などが相次いで休止に追い込まれている今、参加者からの「寂しい」「楽しみがなくなった」「皆に会いたい」等の声に加えて、尽力していた全国の活動者や生活支援コーディネーターからも「住民の意欲低下を感じる」「集まることへの住民の不安が根強い」「再開したいが方法がわからない」などといった声も多く届いている。しかし、コロナの影響が顕著になり出してからすでに半年、「早く再開してほしい」というたくさんの純粋な声に後押しされて、勇氣を持って「新しい一歩」を踏み出している地域も出始めている。ここでは、動き出している各地の工夫を凝らした取り組みを紹介する。

# 今こそわかる「回覧板」のチカラ

岡山県倉敷市

岡山県倉敷市（人口約48万人）の生活支援コーディネーターは第1層、第2層とも倉敷市社会福祉協議会の元気あふれる職員たちが担っている。日頃からこまめに地域に通い住民に接している彼等は、今回もまずは住民の声に耳を傾けることから始めている。「今、地域では何

が求められているのか」「どんな形ならできるのか」、そんな話し合いの中からどこか懐かしい交換日記型回覧版のアイデアが生まれた。「つながる回覧」の取り組みは、地区のサロンメンバーに回覧板を回し、それぞれが近況や心配事、暮らしの工夫などを書き込んでいくことで、そこに住む人たちの暮らしを見える化し、つないでいくものだ。読んだ人は「すばらしい！」「楽しい！」「びっくり！」「心配！」などの反応や一言返信を添える。サロンに集まることはできないけれども、仲間の暮

つながる回覧板

**「SCサロン」メンバーのみなさまへ**

新型コロナウイルスの影響で、なかなか会えない日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか？  
自粛生活が続くなか、体力や気力の低下したり、日々の交流から得ていた暮らしの情報が不足するなど、集わないゆえの、暮らしの不安が見え始めています。  
この「つながる回覧」を、サロンメンバーに回していただくことで、集うことは出来ないけれど、情報と皆さんの暮らしをつなぎたいと思います。  
ご協力よろしくお願いたします。

「今から、求められているものか地ほをめくる」とかほかしい、交換日記型の回覧板です！」

**体を動かす**

回覧版は、サロンメンバーのお宅を巡ります。ウォーキングを兼ねて次のお宅まで、お届けしてください。

**正しい情報**

みんなでおしゃべりや情報交換ができない分、定期的なコロナウイルス関連だけでなく暮らしや地域の情報をお知らせします。

**暮らしを感じる**

自宅での生活で、楽しんでいること、気になること、不安なことはありませんか？ぜひ、皆さんの今の暮らしをよるしければ書き込んで戻してください。

**お問い合わせ先**

お問い合わせ先（SCサロン代表：松岡 武司） ☎086-434-3301

4月30日（木） 氏名：松岡 武司

**わたしの近況**

..... SCサロンがしばらく開催できていないので、少し寂しい気持ちで日々生活をしています。5月にお友達2家と予定していたキャンプも中止となり、子ども達も残念そう.....  
先週の土曜日に庭先にテントを設置して、家族で自家キャンプをしたところ、思った以上に楽しめました.....  
早く、サロンが再開し、皆さんの変わらない元気な顔に会えるのを祈っております。

**暮らしの工夫**

家にいる時間が増えたので自宅で手づくりマスクづくりに挑戦中.....  
つつい作りすぎちゃったので、欲しい方はご一報ください。

**気になること**

いつもサロンに来ていた松本のおじいちゃん、一人暮らしで、「腰が痛い」って言っていたけど大丈夫かしら？何か助けてあげられることはないかな？

※上の近況等を読んだ感想を正の字で書いていきましょう。

みんなの反応	すばらしい！	楽しい！	びっくり！	残念..	心配..
反応	正	F	-	T	T

**お返事記入欄**

..... 自宅でキャンプ楽しそう！落ち着いたら外でみんなでごはんを食べるイベントをしませんか.....（山本）  
..... 心配してくれてありがとう。体調は相変わらずだけれど、腰が痛いから重い物を代わりにしてくれ人がいてくれたら助かるなあ..... マスクつけてもらえるとうれしい.....（松本）

らしを感じることでつながりを継続しようという工夫だ。取り組んだ地区では、『つながる回覧』をきっかけとしてサロン再開にこぎつけたところも出始めている。

市社協ではさらに『マスクプロジェクト』も展開中だ。手作りマスクを作製することで住民は役割とやりがいを感じ、必要な方に訪問して提供することで安否確認・見守り活動にもつながっている。マスクの材料は地元企業や団体が提供しており、オール倉敷で地域を支える様子がある。

## マスクを作って配って楽しんで

### 長野県長野市

手作りマスクに取り組む地域は全国でも数多くあり、長野県長野市の大豆島地区（人口約1・2万人）もその一つだ。『スマイル・プロジェクト』と名付けられた取り組みは、住民がマスクを手作りし希望者に渡すという手法は他地域のものと同じだが、「普通サイズのマスクはあっても子ども用サイズがない」という地域特有の声もしっかり把握しており、子ども用マスクを中心に作る

はつらつ体操グループの皆さんへ

### 『スマイル・プロジェクト』のお誘い

新型コロナウイルス感染症の影響で自由な日々が続いていますが、皆さんのいかがお過ごしですか？「はつらつ体操」も中止の状態が続いて、お仲間と会えないのは寂しいですよね。そんな中で、今回『スマイル・プロジェクト』を計画いたしました。

ご存知のように世間ではマスク不足が続き、まだまだ入手困難な状態です。皆さんの中には、自分でマスクを手作りした方もいらっしゃるのではないでしょうか。「ご自身のマスク」「ご家族のマスク」を作ったついでに1枚でも2枚でもいいので寄付していただければ幸いです。

「普通サイズのマスクはあっても、子ども用がない@」

こんな声が聞こえてきましたので、今回は子ども用のマスクを中心にお願いいたします。いただいたマスクは、「まめっ子サロン」や「まめっ子ふれあい広場」で希望される方に渡します。

#### 【募集するマスク】

☆マスクの型に指定はありません

☆材料の指定はありませんが、可能なら使用している材料を記載したメモをいただけるとありがたいです。

#### 【お願い】新型コロナウイルス感染症への対策を行ってください

- ・清潔な生地の使用 ・作業の前には手を洗う
- ・複数人で集まって作業をしない

完成したマスクは住民自治協議会までお待ちいただくか、お散歩のついでに支所・大豆島公民館のポストに入れていただいても構いません。その場合はお手数ですが、お名前とご連絡先を書いてください。また、引き取りも可能ですので、ご連絡いただければご自宅まで取りに伺います。

指先を使うことは認知症の予防になるそうですし、顔を思いながら作業をすることで楽しい気持ちになるのではないのでしょうか。

一日も早くコロナが終息し、皆さんにお会いできることを楽しみにしています。



もろもろごまご

『スマイル・プロジェクト』に関する問合せ先  
大豆島地区住民自治協議会 地区福祉ワーカー平野  
☎221-5700（カレンダー通りに勤務しています）



こととしている。マスク作製の呼びかけでは「お願い」ではなく「お誘い」としているのも自主性を促す工夫の一つだ。さらに作ったマスクは事務局が取りにうかがうだけでなく、作製者自身が散歩ついでに支所・公民館のポストに入れるスタイルも推奨することで健康維持にも気を配っている。こうして集まった多くの子ども用手作りマスクは、子どもが集う「まめっ子サロン」（子育てサロン）等でも配布するが、ほかに大豆島公園にマスクを並べ、訪れた親子が気に入ったものを選んで持ち帰る



ことができる青空市のような取り組みも行って。公園を訪れ、にぎわいを満喫した親子からは「気に入った柄を選べて楽しい」「なかなか売っていないのでありがたい」といった声

に加え、「ずっと家にいるので、外に出る機会ができたのも嬉しい」という喜びの声もあがっていた。

大豆島地区では以前より『オトコの料理教室』も開催していたが、4月からは休止を余儀なくされていた。大豆島地区の第2層生活支援コーディネート―平野歌織さんは、せっかく興味を持ってくれた男性参加者の意欲を何とか維持しようと「オトコの料理教室レシぴ集」を編集・発行し、参加者の安否確認も兼ねて配布している。定番料理だけでなくデザートも含んだメニューの1つ1



選べるマスクは大人気（大豆島公園あずまや）

つに、食材の効能や作り方のコツが添えられたレシぴ集は大好評で、料理教室参加者以外からの希望が多数あったという。8月の再開を目指して準備を進めてきた料理教室だったが、感染拡大中の現在、一堂に集まり調理を行うことは未だ難しい状況にある。そこで新しく「特別バージョン」として料理を行わず講義だけをする料理教室を計画した。感染対策として、短時間、少人数、調理の様子は動画で紹介するといったさまざまな工夫により実現。ここでも、つながりを途切れさせない努力が見えてくる。事前に講師が撮った動画を会場で流す環境を整えるには少々の映像関連知識も必要になるが、得意そうな地域の男性に手伝ってもらうことで、さらに仲間を増やしていくというちゃっかりさも頼もしい。

それでも地域は動いている

奈良県生駒市

活動休止中の工夫が光るのは、奈良県生駒市の北西部にあるひかりが丘（人口約1600人）だ。いきいき百歳体操とコミュニティカフェ・ひかりcaféが毎週開

催されている小さいながらも活発な地区だが、それでも活動は3月から休止せざるを得なくなっていた。事務局では「本当に再開できるのか？」という不安の中で、「この状況の中で何ができるのか」と模索していたところ、生駒市フォレスト地域包括支援センターから5月初旬に『あなたの「元気」を届けようプロジェクト』の提案があった。集会所に設置する木を描いたイラストボードに自宅から出向いた住民が花びらのシールを貼っていくというもの。感染に注意しつつ外出機会を持つことを狙ったもので、花シールに書かれた直筆の文字によって、会えない相手を感じる事ができる。さらに従来の体操&カフェの開催曜日・時間に合わせて実施することで、生活習慣を継続し生活リズムの変化を小さくすることで、再開時にスムーズに参加できるようにする工夫もある。提案を受けた事



距離を取り整列する受付では非接触式体温計での検温も行う

事務局ではすぐさま協議を重ね、なんと10日後の5月12日には第1回目が開催されている。

行政や地域包括支援センターから「お願い」

「お願い」されて実施する形の「やらされ感」の中では、このスピード感は生まれないだろう。地域を良くしたい思いを持った住民こそが、活動を推進する原動力となる事が明快に伝わってくる。花びらを貼ると同時に自身の近況や困りごとを記入して専用BOXに投函する「元気です/カード」が果たす役割も大きい。記載された内容から体調等に不安がうかがえる場合には、地域包括支援センターに相談するケースもあったそうだ。プロジェクトはその後3回にわたり続けられ、実施前には「一体何人が参加するのか」「参加者は少ないかもしれないが、まずはやってみよう」という走りながらのス



元気を届ける花シールを貼る

タートだったが、毎回50名を超える住民が参加して、瞬間に花満開の木が出来上がった。ひかりが丘では、住民の元気を乗せた花びらが枝木を覆ったタイミングで体操&カフェを再開することができている。

プロジェクトの様子は動画でも紹介している。さわやか福祉財団のホームページから視聴できるので、活動再開への思いや参加者の喜びに、ぜひ触れてみてほしい。

（「心と心をつなぐ工夫と取り組み」を紹介する動画は、第1弾・生駒市ひかりが丘、第2弾・静岡県袋井市「たすけあい遠州」に続き、今後、随時リリースしていく予定）

## NEXT、皆でつながり、共に未来へ



ステイホームが求められる新型コロナへの対応は、皮肉にも「人とのつながりの大切さ」を際立たせることになった。多くの人が再びつながりたいと願う中、つながる気持ちをつなげていくための知恵を出した取り組みはほかにも、往復はがきの「えがお便」（広島県広島市）、笑顔結びプロジェクト（岡山県新見市）、青空居場所・出前居場所（袋井市）、キッチンカーde繋ぐひま

キトキトこども食堂（富山県氷見市）等々、従来の活動を拡充したり柔軟に形を変えていったりと、紹介した事例のほかにも前を向いて新たな一歩を踏み出している例はたくさんある。どの例もコロナに委縮することなく、対応をつながるきっかけの一つにしよつという意欲に満ちている。

『変わることを楽しむ』とは、「たすけあい遠州」代表・稲葉ゆり子さんの言葉。これからは変化することを恐れず、自然体で住民に寄り添うしなやかな姿勢が、地域をより一層輝かせる力になっていくのだろう。

地域共生社会の実現に向けたNEXT STAGEへの扉は今、開かれている。

# NEXT

心と心をつなぐ工夫と取り組み



<https://www.sawayakazaidan.or.jp/news/movie-next001/>

# 「地域助け合い基金」状況のご報告

「地域助け合い基金」について、今月号では、8月15日現在の状況をご報告いたします。

## ◎寄付受付額 136件

775万8200円

このほかに当財団より3千万円を供出

## ◎助成実行額 138件

1763万9350円

(8月15日 当財団ホームページ開示時点)

8月号でご報告した7月15日現在の状況から、さらに27件のご寄付を頂戴し、43件の助成を実行いたしました。引き続き全国からご寄付をいただき、本

当にありがとうございます。

地域の特定については、豪雨に見舞われた熊本をご指定された方がいらっしやる一方、全国の助け合い活動を支えたいと特に地域を指定されない方がほとんどとなっております。コロナ禍がなかなか収束しない厳しい状況の下、何とか助け合い活動を続け、発展させようとする団体を応援するというコメントもいただきました。

助成43件の内訳は、Ⅰ（コロナ禍対応助成：コロナ禍により被った助け合い活動の被害額の支援）が7件、Ⅱ（同：コロナ禍により生じた生活上の不便・不安を解消するための助け合い活動）が15件、Ⅲ（共生社会推進助成：地域の助け合いを維持・発展する活動）が21件となり、引き続きⅢの割合が高ま

っていく傾向が続いています。コロナ禍がなかなか収束しない中ではありますが、共生社会の実現を目指して助け合いを進めようという皆様の思いが見て取れる内容です。助成させていただいた団体の活動は、地域の有償ボランティア、高齢者支援、フードバンク、居場所等のほかに、外国人や障がい者の支援、防災など多様なものとなっています。

また、5月18日の立ち上げ以来、「地域助け合い基金」により助成させていただいた団体からは、助成金を活用した活動の報告を受領し始めており、それぞれ準備が整い次第、当財団ホームページや本稿にて随時ご紹介してまいります。

「地域助け合い基金」は共生社会の実現に向け長期にわたって取り組んでまいりますが、その観点も踏まえて8月15日付で「助成応募要領」の一部を見直しました。概要は本誌22ページ、詳細は当財団ホームページに掲載しておりますので、助成を検討されている方はご参照ください。「地域助け合い基金」

は、皆様のご寄付により運営されています。どうぞ引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

(事務局長・内田)

当財団ホームページでは毎日、寄付と助成金額を開示しており、助成可能な金額も一覧できますので、寄付や助成をお考えの方は参考にしてください。

●基金に関する情報、および  
クレジットカード決済は、  
QRコードもご利用ください！



クレジットカード  
決済ページ



財団ホームページ内  
基金関連ページ

基金に関する  
ご意見・お問い合わせ

<地域助け合い基金担当>

電話：(03) 5470-7751 FAX：(03) 5470-7755

メールアドレス：mail@sawayakazaidan.or.jp

# 応援ありがとうございます！

## 「地域助け合い基金」助成先のご紹介

皆様のご寄付を原資に、全国であたたかい活動が広がっています。助成金活用の結果をご報告いただいた団体から、3団体の活動報告をご紹介します。全国からいただく活動報告は、当財団ホームページですべてご紹介していきますので、どうぞそちらもご覧ください。

広島県福山市

### 収入減の外国人をフードドライブで支援

外国人留学生を支援する会

助成金額 10万円

外国人留学生を支援する会では、福山近辺在住の外国人留学生との交流を通じて、市民の国際理解を増進するとともに、日本語スピーチコンテストや運動会、防災教室等を実施するなど、留学生の教育・生活面を支援するための企画実施を行っています。コロナ禍でアルバイト収入がなくなり生活苦となっている外国人留学生たちへ

の生活支援として、「ふくやま国際交流協会」と共催でフードドライブを実施。食糧受付で集まった食品に加え、水、ツナ缶詰、レトルトカレー、お菓子、ふりかけなどを本助成金で購入し、地域の外国人の皆さんに配布できたほか、同会会員の学校に在籍する留学生に配布するマスクも追加購入できたとの報告を、活動の写真と共に届けてくださいました。

\*フードドライブ：家庭などで余った食べ物を持ち寄り、まとめてフードバンクに寄付することを通じて、必要としている施設や人に届ける仕組み。

鳥取県琴浦町

### コロナ対策万全に、交流の場を再開

夢現の風

助成金額 15万円

夢現の風では、誰もが気軽に集まれる交流の場を開催

してきました。多くの利用者から開催日を増やしてほしいという要望を受け、今年の活動方針として月2回から月3回とした矢先、新型コロナウイルスの影響を受けて4月中旬より活動休止となりました。

再開に向けて、県のガイドラインに沿いマスク着用や手洗い・消毒の徹底、飛沫防止シートの設置等、できることから準備したものの、空き店舗を活用した経緯から空調や衛生設備に不備があり、整備の必要性を検討したものの財源的に対応が難しい状況でした。そのような中、地域の生活支援コーディネーターから提案された本基金に応募、助成金を活用して、換気をしながら室温を調整するためのエアコンと、出入口とトイレの手洗い設備を整えました。7月、交流の場は約3か月ぶりに再開し、多くの利用者でにぎわい、コロナ対策が施された安全な場所に皆さん安心し、喜ばれたとのことでした。

「財団の迅速な対応と審査により助成金対象団体に決定となり、会員一同この上ない感謝でいっぱいです」「財団のご趣旨に賛同されご協力くださいました全国の皆様へ衷心よりお礼申し上げます」とのメッセージを届けてくださいました。

埼玉県川口市

## コロナ禍で、命をつなぐ食材を提供

NPO法人こどもの居場所づくりinかわぐち

助成金額 10万円

こどもの居場所づくりinかわぐちでは、地域住民が主体となって、こころ、栄養、学習の各分野で、それぞれの子どもが必要とするサポートを行い、子どもたちの学びや食事の場を提供することを目的に、月3回、こども食堂を開催しています。

こども食堂を利用する家庭の中で非常に生活に困窮している家庭（特定支援対象世帯・一人親世帯、大家族世帯、求職中世帯）へ、コロナ禍でも最低限、命をつなぐための食材を提供するため、本基金の助成を活用。事前を実施した各家庭へのアンケート調査では、精米・調味料を求める声が多数だったため、本基金の助成と地元企業や農家からの寄付で、30世帯・75名の方々に対し、1世帯につき1か月から2か月半程度生活できる食材を提供できたということです。また、食材配布会場には近隣民生児童委員や学習支援ボランティアスタッフを配置し、現在の生活での困りごとなどへの相談支援も併せて実施できたとのことでした。



# 住民のちよつとした困りごとを

# 地元商店街の元気と アイデアで支え合う

宮之阪中央商店街振興組合みやサポ事業部（大阪府枚方市）

昭和の時代から地元住民の生活を支えてきた商店街。宮之阪中央商店街のある明倫小学校区でも時代の流れとともに少子高齢化が進み、商店街に足を運ぶお客さんが年々減り続けてきました。子どもからお年寄りまで、人が集まることでお互いの困りごとを解決し、地元のおじいちゃんおばあちゃんを何とか元気づけたい！ そんな大阪商人の熱い思いがあふれる取り組み現場を紹介します。

（取材・文／塩瀬 潔泉）

住民、ボランティア、お店  
それぞれがうれしい仕組みづくり

大阪府枚方市は、隣接する交野市と共に古くは平安貴族の狩場として知られていた。今回の活動の舞台となつている宮之阪中央商店街に沿って流れる天野川は、砂が白く光ることから「天の川」になぞらえられ、周辺には七夕にまつわる伝説や地名も数多く存在、在原業平がこの地を詠んだ歌も伊勢物語に収められている。

その天野川沿いに1970年、大手ショッピングセンターが outlet して、周辺に形成されたのが同商店街だ。約1キ





宮之阪中央商店街の七夕祭り

ロケットの通りには現在、商店や金融・医療その他のサービス、地域包括支援センターなど120ほどの店舗や事務所が軒を連ねる。

「私たちにとって、地元住民の皆さんは大切なお客さん。以前は元気に毎日来てくれていたおじいちゃんおばあちゃんの買い物が増え、数回になり、1回になり、そしてヘルパーさんと来るようになり……。最近ではお客さん1人当たりの買い物以前10分の1、ということになってきました。その人たちに何とか元気でいてもらい、歩けなくなり外出できなくなる前に何かできない



宮サポの活動を中心メンバーとして盛り上げる永濱さん

だろうか、と商店街の仲間数人で考え始めたのが活動のきっかけです」と話すのは、ショッピングセンター内でたこ焼きなど、粉もん〴〵の店を営む永濱旭さん（55歳）。

2014年、まず永濱さんたちは、御用聞きや自転車での商品の宅配などでお客さんの買い物を支援することを検討した。しかし周辺には坂道が多く、団地の上層階への届けなども考えると、ボランティアで行うのは難しかった。ただ、さまざまな方策を検討していくうち、住民の困りごとは必ずしも買い物だけではないこともわかってきた。庭の掃除や草取り、話し相手などを求

める高齢者もいることから、有償ボランティアで困りごを抱える住民と担い手をマッチングしようということになったのだ。謝礼は、1サポ11円として100サポと500サポを発行するチケット制で、それをボランティア（サポーター）の謝礼だけでなく、商店街での買い物にも使えるというアイデアを加えた。サポーターには100%を謝礼とし、お店で使われた場合は95%をお店に、5%をこの事業の運営費とすることにした。住民も、手伝ってくれるサポーターも、そしてお店にも喜ばれる方法である。

「活動には、いろんな人たちが集まって気軽に話をしてもらえる場所が必要だね、と。〴〵箱〴〵を作って何かしようとしたのではなく、活動のために必要な場として、商店街の中にカフェをオープンすることも決まりました」  
ちょうどそんなとき、当時の同商店

街振興組合理事長の坂本一彦氏がテレビで子ども食堂を知り、困っている子どもがたくさんいることに衝撃を受け、自分たちでも子ども食堂をやれないかと提案した。そこで永濱さんたちは「ほんなら理事長、どっか台所がある場所貸してや、と（笑）」。すると坂本氏が、所有する元居酒屋の空き店舗をカフェ兼子ども食堂にと無償で貸してくれたという。そうしてオープンしたのが「チカラのみせ処 宮ノサポ」である。

### みんなの協力で活動開始

今のカフェがある店舗は2代目になるが、やはり坂本元理事長所有の空き店舗。1階はカフェ、2階が振興組合の事務所になっており、毎週月水金に「宮サポカフェ」を、毎月第2・第4木曜日は「子どもいきいき笑顔食堂」

として、子どもや親、高齢者が集う子ども食堂を開催。地域交流のためのコミュニケーションスペースとして貸し出しも行ってきた。

動き出すにあたっては、市社会福祉協議会や商店街の中にある包括などが相談に乗り、サポーター登録してくれ

る人には市社協のボランティア基礎講座で基本を身に付けてもらった。さらに、「あんたらが何かすんねやったら手伝ったるで」という商店街や顔見知りの近所のおばちゃんたちも1人、2人出てきてくれ、カフェへの差し入れや子ども食堂のお手伝いサポーターを引き受けてくれた。また、立ち上げの相談に乗ってもらった「NPO法人

ひらかた市民活動支援センター」から紹介された、関西外国語大学の学生ボランティアグループ「ひまわ



活動の拠点である宮ノサポ



宮ノサポ内にあるちよいサポ掲示板

り」の学生たちには、カフェの内装などの準備を自由にやってもらったという。その学生たちもコロナ禍前はカフェや子ども食堂に参加していたほか、謝礼のチケットを手に、商店街に来たことがない友人と一緒に買い物に来てくれて、お客さんを増やすことにも一役買ってくれたそうだ。

現在、サポーター登録している人は10数人。カフェ内に「ちょいサポ掲示板」としてお手伝いメニューと何サポで引き受けるかが書かれたカードを貼り出しており、利用したい人がそのカードを取りスタッフに申し出て、サポーター本人がそこにいれば、その場でマッチングが成立する、という仕組みだ。事務局が電話で有償ボランティアを受け付ける方法ではなく、このような形にして双方で直接話ができれば、あとはサポーターも依頼された先に出向くだけでよく負担が軽い。顔が見え

る関係の中で活動すること、責任が重くなるようなことはサポーターにお願いしない、という気軽さが活動を継続していくために大事なことだという。

宮ノサポは、一昨年からの市の高齢者の居場所としても登録され、電話で問い合わせたうえで訪れる高齢者も増えた。来てくれた人には1000円で飲み物とお菓子を提供しながら、スタッフが話し相手になったりする。「ここに来ると楽しい」と、リピートする高齢者も多い。

### コロナ禍からの活動再開

新型コロナウイルス感染症が拡大し、今年3月からは宮ノサポも活動がいったん休止となった。しかし6月2週目

から、十分な感染予防策を講じてカフェと子ども食堂を再開。みやサポ事業の事務局を一手に担う松宮信代さんは、



みま松の事務局長の松宮信代さん

「再開する前には、安全に継続していくためにどうしたらいいかを、包括的にも含め関係者が集まって話し合いました。大阪府のガイドラインに沿って、マスク着用や消毒のほか、訪れた人には名前と連絡先を記入してもらい、追跡できる体制を整えました。席の数を減らして3密にならないようにするなど、府の『感染予防宣言ステッカー』も取得したので、皆さん安心して来てくれているようです」と、活動再開にこぎつけた経緯を語る。

しかし再開第1回目、コロナ禍前まで1回に50人ほどが来て大変なまでに多かった子ども食堂に来たのは10数名。



透明マスクを着用して調理を行うなど、万全の感染予防対策で再開した宮ノサポ

それまで2通りだったメニューを1つに変更して作った40人分の食事はサポーターの人たちが買い取るといふ寂しい状況だった。それでも、2回目からは徐々に人数も増え、今は密をつくらぬように15〜20人の子どもや高齢者が食事をしている。カフェも子ども食堂も来店する人が増えてきて、皆、再

### 生活支援コーディネーターとしてアンケートを生かし、コロナ後へ

枚方市では、生活支援体制整備事業の第2層を各小学校区に設置している。宮ノサポのある明倫小学校区でも、市社協、包括、各自治会、民生委員、第2層生活支援コーディネーターなどで

開を喜んでくれるという。  
 今後は、様子を見ながら10〜11月をめどに、これまで宮ノサポで実施してきた手作り市やギターコンサートなどの行事も再開できたらと考えている。え、準備を始

協議体を編成し、原則2か月に1回程度協議体を開催している。第2層生活支援コーディネーターは、「これまでのさまざまな取り組みを地域全体のために生かしてほしい」という包括の推薦で同商店街が引き受けた。

協議体には永濱さんが出席し、行事についての打ち合わせなどのほか、自治会長らから出される小地域での困りごとに対し、どんなマッチングができるかを話し合っている。住民の困りごととは内容もさまざま、担い手は高齢化。これらの問題を解決するためには、住民にニーズをきちんと聞き、同時に担い手となるボランティアも掘り起こす必要性を感じ、協議体は昨年7〜8月にかけてアンケート調査を実施した。配布・回収は自治会長を通じて班ごとに行い、2000軒に配布、193軒から回収した。

主な質問項目は、「生活のちよつと

した困りごと」「地域活動に期待すること」、そして「地域で自分ができること、やってみようこと」。困りごととしては、粗大ごみの廃棄、電球の交換、庭の草取りが多くを占め、「今は大丈夫だけど、いつまで自分でできるか」といった不安の声も多かった。地域活動には、気軽にみんなで集まれる場所を望む意見とともに、健康のために身近な場所で何かしたいという声が目立った。そして、「自分ができること、やってみようことがある」と10名が記名してくれた。

ところが、いざこのアンケート結果を活動にノという矢先、校区を新型コロナウイルス感染症が襲った。そして今、ようやくさまざまな活動が再開しつつある。

「せっかくの住民の皆さんの声を生かさなければいけないし、ボランティアに名乗りをあげてくださった方々との

つながりを切らないように、ぜひ仲間としてこれから一緒に活動していきたい」と永濱さんは熱く語る。たこ焼き店の傍ら運営している高齢者向けの体操教室にも、このところ「いつ再開するの？ 1人でやってもつまらないし続かない。早くまたみんなと体操がしたい」という問い合わせが増えてきた。

「要介護になって、おじいちゃんおばあちゃんが商店街に来てもらえなくなつてからではなく、どうしたら元気でいてもらえるか、そのために商店街や住民にどんなお手伝いができるか。みんなで工夫して盛り上げていきたい」

コロナ禍に負けない元気な宮之阪をこれから見られるのが楽しみです。

枚方市の宮之阪中央商店街にある「チカラのみせ処 宮ノサポ」を拠点に、チケット制のサポーター制度を運営。1円＝1サポとして、100サポと500サポのチケットを発行し、「宮ノサポ」を訪れる人たちに困りごとを解決できるサポーターをマッチング。話し相手や将棋の相手、代筆、裁縫、庭の掃除や草取り、パソコンでの文書作成等の活動を行っている。チケットは、商店街振興組合加盟店での買い物にも利用できるようにしたことで、商店街の活性化にもつなげている。「宮ノサポ」は、有志のサポーターを中心にカフェと子ども食堂、各種イベント、コミュニケーションスペースとしても展開。コロナ禍の中でも、6月2週目からは感染予防対策を徹底し、カフェと子ども食堂を再開した。

●連絡先／〒573-0022 大阪府枚方市宮之阪1-19-2  
TEL 090-3149-0861 (平日11～17時)

宮之阪中央商店街振興組合みやサポ事業部

看取り・終末期を考える

## 裏を見せ、表を見せて…

武家の論理と切支丹の教えが共鳴した  
細川ガラシヤ夫人の最期

尾崎 雄

織田信長を本能寺の変で殺した謀反人、明智光秀の娘として過酷な運命をたどった細川ガラシヤ。関ヶ原の戦いに際し、夫の細川忠興が東軍の徳川方についたため、西軍の総大将である石田三成が人質に取ろうとしたが、それを拒み、三成の兵が迫るさなか自らの命を断った。その壮絶な最期が東軍を奮い立たせ西軍を破る一助になったともされる。日本人ならだれでも知っている彼女はキリシタンだったためヨーロッパでもデウスの教えに殉じた悲劇のヒロインとされ、ちよっとしたブームを呈したそうである。その実像は乱世に散った殉教者か、今も続く名門、細川家を守るために命を捧げた武家の妻の鑑だったのか？

ガラシヤを知る外国人は、その抜きん出

た知性とあふれる教養に驚く。この4月、上梓された筑摩選書『明智光秀と細川ガラシヤ』によると、外国人神父の手紙には「日本でまだ一度もこれほどの理解のある婦人に、これほど宗教に深い知識をもっている人には会ったことはない」と書かれていた、という。

イエズス会の宣教師は日本における布教の成果としてガラシヤの受洗と事実上の殉教を誇らしげにヨーロッパ諸国に書き送った。異国人によって脚色されたガラシヤの生涯は逆輸入された格好で明治以後の我が国で広がった。『明智光秀と細川ガラシヤ』の筆者は日本人男性2人とオランダ人男性と中国人女性の4人である。彼らは外国人の目に映ったガラシヤ夫人像を紹介す

る。例えば音楽劇に仕立てられてオーストリアの宮廷で上演され、良妻賢母の鏡とされた。

日本的なガラシャ像は作家の三浦綾子が新潮文庫『細川ガラシャ夫人』で描いた「逆臣光秀の娘という恥を見事に雪ぎ、立派な最期を遂げた」が代表的だ。いっぽう、韓国出身で日本人男性と結婚した安廷苑氏（慶大非常勤講師）は中公新書『細川ガラシャ―キリシタン資料から見た生涯』で、こう読み解く。「ガラシャの死は、日本の戦国期において、名誉を重んじる武家の論理とキリシタンの教えが共鳴し、一体化したものである。それゆえ、日本人にもヨーロッパの人々にも広く受け入れられ、愛されたのではないだろうか」。

「散るべき時を知っているからこそ、この無常の世の中の花として桜はふさわしいのだ。そして、そのような人もこの世の人としてふさわしいのだ（私には今がその死すべきときなのだ）」。享年<sup>38</sup>。ガラシャの辞世のこころを、安氏はこう記している。

ちりぬべき時しりてこそ世の中の

花は花なれ人も人なれ

「散るべき時を知っているからこそ、この無常の世の中の花として桜はふさわしいのだ。そして、そのような人もこの世の人としてふさわしいのだ（私には今がその死すべきときなのだ）」。享年<sup>38</sup>。ガラシャの辞世のこころを、安氏はこう記している。

# ～助成応募要領が一部変更になりました～

つながろう、心で 広げよう、笑顔の助け合い！

## 「地域助け合い基金」でコロナ禍を乗り越えて共生社会へ

8月15日より、「地域助け合い基金」の助成応募要領が一部変更となりました。

新しい応募要領の概要は下記の通りです。

**1. 期間** 常時受付。基金の範囲内で、配分は随時行います。

### 2. 対象とする活動

共生社会を推進するための助成として、地域で暮らす人同士の助け合い活動（つながりづくりを目的とした居場所や地域活動を含む）。新たに団体を設立する場合のほか、新たに活動を広げる場合やコロナ禍に対応して特別な助け合い活動を行う場合も含まれます。高齢者、子ども、認知症、障がい、生活困窮の方々、刑余者、外国人、ケアラーの支援ほか、分野は問いません。ただし、日本国内の活動に限ります。

### 3. 助成額・回数

助け合い活動の開始、維持、発展のため具体的に必要とする額。上限15万円。原則として1回。ただし、やむを得ない時は2回。

### 4. 助成の対象

法人格の有無を問いません。個人による活動も含まれます。

**5. 応募方法** 当財団ホームページの「助成応募要領」で詳細ご確認のうえ、申込書および必要添付書類をメールまたは郵送にて当財団までご送付ください。

<メール送付先> [tasukeai-kikin@sawayakazaidan.or.jp](mailto:tasukeai-kikin@sawayakazaidan.or.jp)

<郵送先> 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7階  
公益財団法人さわか福祉財団 「地域助け合い基金窓口」

### 6. その他

助成金を活用して行った取り組み内容、活動の効果をご報告ください。

助成応募時の推薦、あるいは、助成を受けた活動の報告ご提出時に、地域の生活支援コーディネーターとの連携をお願いしています。また、助成した活動の報告内容については、当財団のホームページや冊子等で公開させていただきます。

【総合お問い合わせ】 公益財団法人さわか福祉財団

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7階

電話 (03)5470-7751 FAX (03)5470-7755

メールアドレス [mail@sawayakazaidan.or.jp](mailto:mail@sawayakazaidan.or.jp)

※応募書類の送付先メールアドレスとは異なりますのでご注意ください。



# 新しい ふれあい社会づくりに 向けて

いきがい

ふれあい

助け合い

さわやか福祉財団は、子どもから高齢者まですべての人が、  
それぞれの尊厳を尊重しながら、いきがいをもって、  
ふれあい、助け合い、共生する地域社会づくりを一貫して進めています。  
特に現在は、全国自治体が新地域支援事業で取り組んでいる  
住民主体の助け合いの地域づくりを強力に支援しています。  
どうぞ、皆様の地域の情報もお寄せください。

## ● 新地域支援事業・助け合いの地域づくり

北から南から 各地の動き

## ● その他の財団の活動 など

ご支援ありがとうございます。

さわやかパートナー（賛助会員）・

ご寄付者の皆様のご紹介

さわやか活動日記(抄)





## 新地域支援事業・ 各地の動き

(2020年7月2日～31日)

- 全国各地で、  
推進の支援をしています
- 活動の一部を紹介しています

### 生活支援コーディネーター・ 協議体と連携

#### 川島町 (埼玉県)

20日/川島町にて第2層協議体合同会議が行われ、当財団も参加。感染予防に配慮し、事前に資料を各協議体へ送付し、それに対する質問を事前に集約して、生活支援コーディネーターが答える形で実施した。また、各地域の現

状報告もを行い、居場所を再開した地域の協議体からの報告や、再開時の工夫点などを共有した。財団からも、青空居場所や移動居場所等の情報提供を行い、活動再開時には、感染予防に対する参加者の意識に差がある場合もあるため、十分話し合うことの大切さなどを話した。

(岡野)

#### 笛吹市 (山梨県)

22日/山梨県のアドバイザー派遣事業で個別支援に手を挙げた笛吹市で「生活支援体制整備事業研修会」が行われ、当財団から川田と鶴山が訪問。市全体と第1層・第2層の取り組みを各生活支援コーディネーターが発表し、それに対して南アルプス市の生活支援コーディネーター齊藤節子氏と小林陽一氏、鶴山がそれぞれの第2層の特徴を踏まえたアドバイスをを行った。協議体メンバーの思いのある意見が、行政や生活支援コーディネーターと共有される研修会となった。研修会後に生活支援コーディネーターとの意見交換会が行わ

れ、ここでも齊藤・小林両氏と鶴山から参加者の気づきを促すアドバイスをを行った。

(川田)

#### 昭和町 (山梨県)

9日/山梨県のアドバイザー派遣事業で個別支援に手を挙げた昭和町で「生活支援体制整備事業立ち上げ準備会議」が行われ、当財団から川田と鶴山が訪問。南アルプス市の生活支援コーディネーター齊藤氏と小林氏、鶴山が実践に基づくアドバイスをを行い、気づきを得てもらった時間となった。今後は具体的な取り組み計画を立てて動き出す予定。

(川田)

### 協議体編成のための 研修会・勉強会等に協力

#### 羽後町 (秋田県)

26日/羽後町では、昨年12月に住民フォーラムを開催した。その後、第2層協議体構成員を選出するための勉強会を今年1月に行ったが、その後、コロナの影響で延期。この日2回目の再開

となった。遠方秋田の会場と当財団をリモートで結び、生活支援コーディネーターと協議体の役割について財団が事例を交えながら講演。「ここまでわかりましたか？」と呼びかけると会場の皆さんは手を振って応えてくれた。質疑応答では、高齢者の参加やコロナ禍におけるサロンの取り組みなどについて意欲的な質問があり、財団から回答した。終了後、第1層SCの小林論史氏や行政、社協の皆さんと熱心な参加者の皆さんの様子を共有し、次回3回目に向けて話し合った。(鶴山)

### 生活支援コーディネーター 養成研修等に協力

#### 岩手県

28日／岩手県主催で、就任2年目までの生活支援コーディネーターを対象に生活支援体制整備事業の基本を理解してもらうための養成研修会が行われ、当財団から清水肇子理事長と鶴山が講師として協力。定員を当初の半分とし、

広い会場で3密を避けるなどコロナ対策を行っての実施となった。参加市町村には、生活支援コーディネーターと協議体の役割について取り組み状況や課題など事前にアンケートを取り、当日資料として共有した。当日は、県担当者からの行政説明に続き、清水理事長が「生活支援コーディネーターと協議体に期待される機能・役割」として講義を行い、続いて鶴山から「生活支援コーディネーター・協議体による助け合いの創出に向けたプロセスとコロナ禍における助け合い活動」として事例を紹介。グループワークで目指す地域像の実現に向けた地域への働きかけについて知恵を出し合った。事後アンケートでは、「具体例を交えた説明でわかりやすかった」などの感想が見られた。

29日／行政の異動も多い中、行政担当者を対象として「生活支援体制運営研修会」が岩手県主催で開催され、清水理事長と鶴山が講師として協力した。

最初の県担当者からの行政説明に続き、清水理事長の講義「生活支援体制整備の進め方及び助け合い創出の後方支援について」が行われ、続いて鶴山から「多様な助け合い活動の広め方 体制整備のあり方」として、体制づくり・庁内連携・助け合い創出等の事例やコロナ禍での活動を紹介した。その後のグループワークは、「庁内連携をどのように進めるか」「多様な助け合いを広める後方支援」の2つのテーマで実施した。事後アンケートでは、「事業の自由度をポジティブに捉えて推進するヒントが得られた」「庁内連携のノウハウを学ぶことができた」などの感想が見られた。(鶴山)

### 助け合いの地域づくりのために協力

#### 三春町(福島県)

22日／三春町で、住民主体の地域づくりに向け、庁内職員の意識統一を図り、生活支援体制整備事業の考え方を学ぶ職員研修が行われ、当財団が講師を務

いきがい・助け合いサミット in 大阪

# 『助け合い大全'19』

昨年9月に開催した「いきがい・助け合いサミット in 大阪」のすべてを収録した『助け合い大全'19』です。

サミットでの全体シンポジウムと各分科会における発言要旨をまとめた『パネル編』、ポスターセッション出展の全作品を掲載した『ポスター編』、そして『提言編』を3冊セットで頒布いたします。助け合い活動、「お互いさま」の共生社会づくりに、ぜひお役立てください！

お申し込みは当財団まで

→ [mail@sawayakazaidan.or.jp](mailto:mail@sawayakazaidan.or.jp)

1セット2,000円（税込み）

送料別途

※3冊セットのみでの頒布となります。

## 【助け合い大全'19 提言編 目次】

- いきがい・助け合いサミット in 大阪の意義と特徴
- 全体シンポジウム発言要旨
- 分科会1～54  
提言／登壇者／議事要旨
- ポスター展
- いきがい・助け合いサミット in 大阪を振り返って



ポスター編



提言編



パネル編

めた。2部制で、第1部は庁内全体向けに生活支援体制整備事業の概要を、第2部は主管部署、社会福祉協議会、

地域包括支援センターを対象に事例紹介を行い、質疑応答で理解を深めた。町長をはじめ40名以上の参加があり、

有意義な研修となった。

（本稿は、岡野貴代、川田利輝、鶴山芳子）

（岡野）

# 「地域助け合い基金」ご寄付のお申し込みについて

## 1. 寄付金の使途

共生社会を推進するため、助け合い活動の支援に活用させていただきます。

助成の対象は、地域で暮らす人同士の助け合い活動であり、新たに団体を設立する場合のほか、新たに活動を広げる場合やコロナ禍に対応して特別な助け合い活動を行う場合も含まれます。

高齢者、子ども、認知症、障がい、生活困窮の方々、刑余者、外国人、ケアラの支援ほか、分野は問いません。ただし、日本国内の活動に限ります。

## 2. 税制上の優遇措置

当財団にいただいたご寄付は、税制上の優遇措置の対象となります（当財団発行の領収証が必要となります）。

## 3. ご寄付の方法

### (1) 銀行振込によるご寄付

三井住友銀行 浜松町支店（普通）口座番号 7859452

三菱UFJ銀行 浜松町支店（普通）口座番号 0095446

（口座名義 ※いずれも同様）

公益財団法人さわやか福祉財団 地域助け合い基金

※銀行お振り込みの場合は、送金者の情報がカタカナ表記のお名前のみとなるため、当財団発行の領収書が必要な場合や地域の指定をご希望の場合は、お手数ですが「寄付申込書」を当財団宛お送りください。当財団へのお電話でも承ります。

### (2) 郵便振替によるご寄付

（口座記号番号） 00110-7-709627

（加入者名） 公益財団法人さわやか福祉財団

※通信欄に、ご指定がある場合の市区町村名（区は東京都の特別区）と、ひと言応援コメントなどをご記入ください。

※手数料不要の振込取扱票をご用意していますので、お申し出いただければ郵送いたします。

### (3) クレジットカードによるご寄付

右のQRコードもしくは

当財団ホームページよりお申し込み下さい。



助成応募については、22ページおよび当財団ホームページをご参照ください。

「寄付申込書」「パンフレット」なども、ホームページからダウンロードできます。

**<寄付・助成のお問い合わせ>**  
地域助け合い基金担当

電話：(03)5470-7751 FAX：(03)5470-7755  
メール：mail@sawayakazaidan.or.jp

# ご支援ありがとうございます。

さわやかパートナーは、本財団の趣旨にご賛同いただき、財政的・精神的にご支援くださる賛助会員の皆様です。会費は寄付金の一種として大切に活用させていただきます。新規ご入会の会員の方、会員をご継続いただきました皆様も毎号ご紹介いたします。また、個別のご寄付をいただきました皆様もご紹介させていただきます。

(敬称略) (2020年7月1日～7月31日財団受付分) ※なお、自動振替の場合等、処理日と財団受付日とずれが出て掲載時期がずれる場合がありますご了承ください。

## さわやかパートナー個人(100件)

(都道府県別50音順)

北海道	小野 道子	加賀谷 之治	末澤 勝典	岩手県	住吉 淳子	宮城県	菅原 宏之	秋田県	丹 すみ子	横山 喜代子	山形県	荒井 智子	福島県	根本 良一	栃木県	井上 永子	正岡 太郎	群馬県	井上 謙一	埼玉県	磯山 博	伊藤 博行	加藤 照見	杉本 類子	東郷 晴代	白田 誠	羽島 豊	林 安男	堀内 正範	本江 威憲	松原 尚明	森川 和子	渡辺 誠	東京都	有田 英子	石原 順一	井上 由美	今井 良兒	大福 族生	長田 延満	香川 昇	加藤 洋一	菅野 善男	黒瀬 義郎	千葉 春彦	寺井 正也	中村 厚	中村 豊	人見 敏郎	藤田 邦彦	本多 則恵	本田 豊加	森脇 重人	山田 秀之	山寺 博丸	山本 孝幸	渡部 正和	神奈川県	石川 晋	岡添 ナオ子	木村 利雄	桑野 映美	佐久間 博	塩見 治雄	瀬戸 正	丹直秀	藤田 和弘	吉田 憲正	新潟県	鈴木 せい子	吉田 秀一	福井県	武藤 功士	岐阜県	河合 俊宏	静岡県	鈴木 明与	高部 宗夫	田中 昭彦	平田 厚	愛知県	荒川 裕子	木下 敬一	久保田 久代	中井 恵美子	新澤 宏	山田 勉	京都府	網野 俊賢	奥谷 和隆	山田 勝典	大阪府	穂吉 正孝	芦原 久子	池内 節子	大関 利男	土肥 孝治	兵庫県	井上 雅晴	佐野 正明	高橋 敦	藤本 幸延	山田 富美子	岡山県	神田 典治	山口県	池本 君子	愛媛県	清家 洋晃	高知県	三谷 英子	佐賀県	江口 陽介	大分県	杉森 哲	高木 佳奈枝	沖縄県	仲間 勝弘	比嘉 玲子
-----	-------	--------	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	--------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-------	-----	-------	-----	------	-------	-------	-------	-------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	------	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	--------	-------	-------	-------	-------	------	-----	-------	-------	-----	--------	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-------	-------	------	-----	-------	-------	--------	--------	------	------	-----	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	------	-------	--------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------	--------	-----	-------	-------



さわやかパートナー法人（9件）

（50音順）

- NPO法人COCO湘南  
 NPO法人たすけあい大田はせさんず  
 認定NPO法人  
 たすけあいの会ふれあいネットまつど  
 株式会社東京映画社  
 日本製鉄株式会社  
 一般社団法人日本遊技関連事業協会  
 プライムエステート株式会社  
 NPO法人まごころケアホーム高湯の里  
 宮崎精鋼株式会社

一般ご寄付（5件）

（50音順）

- 緒方 璋（3千円）  
 小野寺 隆一（5千円）  
 ネットワンシステムズ株式会社（4239円）  
 平出 田鶴子（1万円）  
 山田 勝典（5千円）

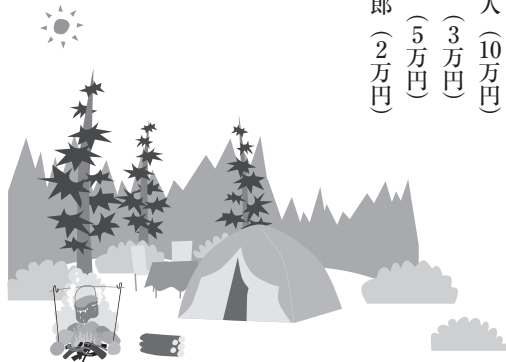


地域助け合い基金ご寄付（36件）

（ご寄付日付順）

- 匿名希望（1万円）  
 ナガスエ コウジ（3万円）  
 匿名希望（3万円）  
 植木 茂（5千円）  
 横田 安宏（5万円）  
 ツジムラ テツオ（1万円）  
 丹直秀（10万円）  
 匿名希望（5万円）  
 株式会社カスタネット（10万円）  
 高橋 照夫（1万円）  
 吉田 薫（1万円）  
 河合 峯（3万円）  
 島本 幸子（1万円）  
 花田 叶恵（3千円）  
 オオナミ ジュンコ（3千円）  
 関 正夫（10万円）  
 匿名希望（1万円）  
 匿名希望（1万円）  
 松井 登（10万円）  
 橋本 玲子（5万円）  
 河内 悠紀（2万円）

- 宮沢 邦子（3万円）  
 島津 禮子（10万円）  
 井田 瑞枝（3千円）  
 匿名希望（10万円）  
 匿名希望（3万円）  
 藤本 裕一郎（10万円）  
 本多 則恵（10万円）  
 浜本 英輔（3万円）  
 山田 勝典（5千円）  
 伊藤 勲（10万円）  
 朝田 充（1万円）  
 高橋 寛人（10万円）  
 匿名希望（3万円）  
 匿名希望（5万円）  
 中戸 幹郎（2万円）



# さわやか活動日記(抄)

〈2020年7月1日～7月31日〉

## ふれあい推進事業

### 復興支援プロジェクト

#### 「県外避難者支援」

## 今年度の交流会に向けて打ち合わせ

〔7月29日〕

「ふくしま避難者交流会」第2回の打ち合わせを、福島県地域復興局、東京都復興支援対策部の担当者に行った。今回の打ち合わせは、新型コロナウイルス感染症防止のため東京都のイン

トラネットを使い、都庁と東京都復興支援対策部福島事務所を結んだテレビ会議により行った。ふくしま避難者交流会は、福島県から首都圏に避難されている方々を対象に、交流の場の提供、復興に向

けた取り組みに係る情報の提供および個別の相談などを行うことを目的としたもので、例年、福島県が主催し東京都と当財団が共催して開催している。今年度については、コロナ禍の状況が予断を許さない中、11月の開催を前提として、開催の可否、開催する場合にどのような形でできるか、検討を重ねている。

(内田)

## 所 務 事 だ よ

●思慮忌の片付けを手伝ってくれたのは研修生のKさんとYさん、新しいスタッフのMさんに、いつもの女性スタッフの面々。密にならないように気をつけながらの片付けだったが、なぜかいつも以上にスムーズに終了。フットワークの軽い皆さんに感謝。●コロナの影響で、世の中は今、新しいライフスタイルを模索中。まだまだ予断を許さない状況だけど、当財団もリーダーによる出張などを慎重に再開。ウェブ会議にも慣れてきたけど、やっぱりフェイスツーフェイスでの打ち合わせも大事ですね！





# 今年も 感謝を 込めて…

統括広報プロジェクト



本誌8月号でご紹介した通り、当財団にご遺贈をお寄せいただいた故人の皆様へ改めて感謝し、そのご遺志を再確認させていただくため、7月15～17日に思恩忌を執り行いました。

財団事務所入口の受付台を祭壇に見立てて模様替えをし、壁には貴重なご資産をお贈りくださった皆様方と当財団の初代会長としてご尽力いただいた故石川忠雄さんのお写真を飾りました。

会長、理事長、そしてスタッフ一同、故人の皆様方へ、感謝の気持ちとご遺志を思い返してご冥福を祈るとともに、新型コロナウイルス感染症が早く収束することもお願いしました。

## ＜ご遺影を飾らせていただいた遺贈者の方＞

故山路鈴子さん、故沢村貞子さん、故小村忠男さん、故松岡廣子さん、故関美江さん、故石河刃雄さん・豊さん、故大友恭子さん、故齋藤規子さん、故小島正治さん、故平栗稔さん、故小高根美那子さん、故原田愛子さん、故藤原俊雄さん、故伊藤和子さん、故森川秀子さん、故遠藤利枝さん、故近持弘子さん、故綱川光子さん、故橋本武義さん、故須永道子さん、故近藤常子さん、故天野郁子さん、故國吉蓮子さん、故坪川速子さん、故小峰勝野さん、故伊藤春子さん、故澤谷静枝さん、故安田夢栄子さん、故和田和子さん

(小野島)

# みんなの広場

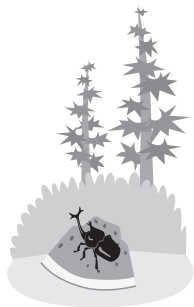


私の住む越前市東地区堀川町では、月3回の集いを行っています。講師を招いての集い、子どもさん親子との3世代のふれあい、ワンコイン100円おやつ、ふれあいカフェ(200円の会費)などで、20〜30人参加のうち男性は10人です。集い参加者の協力で、向こう三軒両隣、エプロン姿のままど「堀川ふれあいサポート」を立ち上げました。コロナ


自宅待機の中  
お元気ですか訪問

北畑 英子さん 77歳

福井県



感染予防のため自宅待機となった3か月の間、一人暮らしの方々の寂しさを癒すため、地域コーディネーターとして200人余りの方々に手作りマスク持参で「お元気ですか」訪問をいたしました。

 一番お元氣なのが、地域コーディネーター

コロナを乗り越え  
自ら創り上げよう

古川 雅子さん 72歳

佐賀県

新型コロナウイルスでカフェを休業していますので、さてどのような新しい生活様式をみんなまで考えていけばいいか、いろいろ考えていたとき、6月号の鶴山さんのレポート(特集「コロナ禍を乗り越えて共生





みんなで乗り越えましょう

社会へ」を読み、直面している私の事業も同じですが、1歩も2歩も新しい出発をされていることに感動と勇気をいただきました。コロナを乗り越え、私たち高齢者自らが創り上げていくべくチャンスと捉えています。さっそくスタッフ会議を行います。ありがとうございました。

『さあ、言おう』投稿募集



## あなたの意見を社会へ生かそう

『さあ、言おう』は皆様の声を社会につなげる  
問題提起型情報誌です。

### ぜひ、ご意見をお寄せください

本誌で取り上げたテーマに対するご意見・ご感想、あるいは普段気になるテーマに基づいた体験記や提言等を随時募集しています。

- 地域の助け合い活動について
- 助け合いの地域づくりについて
- いきがい、社会参加について
- 居場所や地縁組織について
- 新地域支援事業について
- 生き方について 等

\*添付の投稿ハガキや投稿用箋などを  
どうぞご活用ください。

### 送付先

〒105-0011  
東京都港区芝公園 2-6-8  
日本女子会館 7 階  
公益財団法人さわやか福祉財団  
『さあ、言おう』編集部宛  
FAX: (03) 5470-7755  
E-mail: pr@sawayakazaidan.or.jp

私たちはふれあいあふれた地域づくりを支援しています

## さわやか福祉財団の活動をぜひご支援ください。

『さあ、言おう』はみんなで新しい社会のあり方を考える問題提起型の情報誌です

■さわやか福祉財団の活動をさわやかパートナーとしてご支援ください。

『さあ、言おう』を毎月お手元にお届けいたします。

さわやかパートナーは、さわやか福祉財団の理念と活動に共感して会員としてご支援いただく賛助協力者の皆さんです。

個人  
年会費

Aコース 10,000円

Bコース 3,000円

法人  
年会費  
(1口)

Aコース 100,000円

Bコース 20,000円

公益財団法人さわやか福祉財団の会費は、特別な特典を付与するものではない賛助会費であり、寄付金の一つの形です。

■寄付金は税金の控除対象となります。

さわやか福祉財団へのご寄付は、所得税、法人税等の控除対象となります(所得税の寄付控除額の上限は所得の40%-2000円)。

一般ご寄付を  
いただく場合の  
お振込口座

口座名義：公益財団法人さわやか福祉財団

郵便払込 00120-9-668856※

三菱UFJ銀行 浜松町支店 普通預金 口座番号3731714

りそな銀行 芝支店 普通預金 口座番号1174297

※手数料不要の専用用紙をご用意していますので申し出いただければご郵送します。

\*いずれもお問い合わせは、編集部あるいは社会支援促進チームまでお気軽にご連絡ください。(mail@sawayakazaidan.or.jp)

表紙絵

はり絵・池田げんえい



「すすき、  
光る」

編集後記 ●動画「NEXT 心と心をつなぐ工夫と取り組み」がリリースになりました(表紙裏)。奈良県生駒市と静岡県袋井市の取り組みをぜひご覧ください。●特集「コロナ禍を乗り越えて共生社会へ」では、困難な状況の中でも新しい一歩を踏み出している地域を紹介しています(P4~)。●高齢化するお客さんを何とか助けたい! そんな思いから広がった商店街と住民の活動を紹介します(「活動の現場から」P14~)。●「地域助け合い基金」の助成応募要領が8月15日より一部変更になりました(P22)。



小さなつながり、小さな活動が無くなった時には、あつという間に地域は崩壊しますよ。だから、少人数で集まって、大切な誰かに手紙を書く活動をしようと思っています。コロナがなかったらZoomなんか絶対にはやらなかったはずの私たちは、コロナがあったからZoomを覚えたんです。これまでとは違うつながり方がきつとできると思っています。

でも、屋外のウォーキングなら、交流とサロンにこれなかった人の訪問の見守りができる。そつちをやりますよ。

コロナにやられればなしじゃなく、これまでとは違うつながり方にチャレンジしている地域活動のリーダー（みなさん70代です）の一言。

助け合いを  
広げよう！

新  
ひとりごと

## 諏訪 徹



● 日本大学教授  
草の根で福祉を実践している方々を応援できる研究がしたいと思っています。

## （お京お） 9月号

通巻325号 2020年9月10日発行  
(毎月1回10日発行)

表紙絵 池田げんえい  
イラスト すずきひさこ  
福島康子  
細馬一紀

レイアウト 菊池ゆかり

印刷所 日本印刷株式会社  
編集担当 塩瀬潔泉

発行人 清水肇子  
発行元 公益財団法人さわやか福祉財団  
〒105-0011  
東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7階  
Tel (03)5470-7751 Fax (03)5470-7755  
E-mail pr@sawayakazaidan.or.jp  
<https://www.sawayakazaidan.or.jp>  
Printed in Japan

無断複写・無断転載はご遠慮ください©

つながろう、心で 広げよう、笑顔の助け合い!

# 「地域助け合い基金」で

コロナ禍を乗り越えて共生社会へ

「寄付」と「活動」で温かい地域づくりを  
進める基金をつくりました

## あなたの気持ちを 助け合いの力に活かしませんか?

この基金は、どんな状態になっても、誰もが安心して暮らせるように地域で助け合うための基金です。コロナ禍で買い物や食事など生活に困っている方々を助ける市民活動団体に活動資金を提供して、まずはコロナ禍をみんなの温かい心で乗り越え、そして、その助け合いの力が、平時の生活に戻った後も困った時にはいつでも発揮されるように、自由に楽しくてしっかりした地域の助け合い活動を築いていきます。どうぞご寄付・ご支援をお願い申し上げます。

(※お振込先等は27ページをご参照ください)



【ご寄付者様への感謝状】



●同基金に関する情報は、左のQRコードから財団ホームページもご参照ください。



公益財団法人  
さわやか福祉財団